

わたしたちは一日の中で、 こんなに税とかわわっています。

中学生の皆さんも、税とはいろいろなところでかわわっています。税は、わたしたちが健康で安心して豊かな生活を送るために、一日の暮らしの中のさまざまな場面で使われています。

税についてよく知ることは、わたしたちのよりよい暮らしを、わたしたち自身が考えていくためにとても大切なことです。



通学

学校へ安全に通うための道路や信号などに。



授業

学校など教育施設の建設や、机・椅子・教科書の購入に。



勉強のあと就寝

安心な夜、日々の安全を守る警察や消防に。



夕食

安全な食品を作るための農業・漁業の支援に。



部活動

大会やコンクールなどが行われる競技場や公会堂などの施設づくりに。

税はわたしたちの生活を支えています。

【税の歴史を振り返ってみよう】

そ ちょう よう 「租・調・庸」

飛鳥時代、701年に完成した大宝律令では、租・調・庸という税のしくみができました。租は男女の農民に課税され、税率は収穫の約3%でした。調は布や絹などの諸国の特産物を納める税、庸は労役の代わりに布を納める税でした。ちなみに調と庸は男子のみに課税され、農民の手で都に運ばれました。

「太閤検地」

安土桃山時代、全国統一を成し遂げた豊臣秀吉は、全国の土地調査を行い、農地の面積だけでなく、土地の良し悪しや農地の収穫高などを調べて農民に年貢を納めさせるようにしました。

「地租改正」

明治時代、政府は歳入の安定化をはかるため、租税制度の改革に着手し、1873年（明治6年）には、地租改正を実施しました。地価の3%を地租として現金で納めるようにしました。

それぞれの時代では、誰が納めていたのかな？
集められた税はどのように使われていたのだろう？

